

子ども怒り場面・不安場面における養育者の対他感情制御の 即時的影響の検討

(中間報告)

東京大学大学院教育学研究科 則近千尋

The temporary effect of parental Strategies for extrinsic regulation of Children's anger and anxiety.

Graduate school of Education, the University of Tokyo, NORICHIKA, Chihiro

要約

感情を適応的な状態へ変化させる感情制御は、成人はもちろん、子どもにおいても社会適応・精神的健康の基盤となることが明らかになっている。養育者は子どもの状況や発達段階に応じて、子どもの感情に様々な働きかけをしており、このような養育者からの働きかけの中で、子どもは感情制御を学んでいくとされている。しかし先行研究では養育態度と子どもの感情制御との関連は示されているものの、状況の違いや養育者の働きかけ内容の違いはまだ十分に検討されていない。一方、感情制御研究では相手の感情を制御することを対他感情制御といい、どのように対他感情制御するのかはその内容によって5つに分類されることが理論的に想定されている。そこで本研究では、養育者の対他感情制御と子どもの感情場面に着目し、子どもの感情場面ごとに養育者の対他感情制御方略を測定し、各方略とその場の子どもの感情の変化の関連を検討する。

【キー・ワード】 感情制御, 養育態度, 対他感情制御, 怒り, 不安

Abstract

People regulate their own emotion to adjust the situation. Emotion regulation support to cope with difficulties and to create and maintain social relationship. Actually, parent regulate not only their own emotion, but also regulate children's emotion. It is suggested that children learn how to and when to regulate their own emotion from parental extrinsic regulation to children's emotion. However, most of the interest has been limited to parental attitude in previous study, and there is little research that focus on how to and when to parent to extrinsic regulate children's emotion. This study's purpose is measure how parents regulate their children's negative emotions, and examine the relationship between children's emotional reaction and parental strategies for extrinsic regulation of children's emotion (fear/anger).

【Key words】 Emotion regulation, Parental attitude, Extrinsic emotion regulation, Anger,

Anxiety

問題と目的

子どもたちは、様々な感情を経験しながら豊かな心を育てている。その際に重要になってくるのが感情制御である。感情制御とは、「感情経験・感情表出を変化させる一連のプロセス」(Gross, 1998)である。ストレス状況下で安心が脅かされるような感情経験や、対人場面において他者の期待・社会規律にそぐわない感情経験・感情表出を変化させる感情制御は、困難に立ち向かう力や対人関係を築く力に大きく影響している (Saarni, 1990; Denham, Bassett, & Wyatt, 2014)。感情制御研究自体は、成人を対象とした研究を中心に発展してきた分野であるが、成人だけでなく子どもにおいても社会適応・精神的健康の基盤となることが明らかになっている (Eisenberg et al., 2001)。

子どもが状況や文化に応じた感情制御を学んでいく上で、最も大きな影響を持つとされているのが養育者である。実際の子育て場面を考えると、子どもの感情に対する養育者の働きかけは様々である。例えばお菓子で気をそらすことで子どもの悲しみを和らげたり、どうしたら怖くならずに済むか子どもと一緒に問題解決を考えたり、そんなに怒るなと諫めたりしている。また同じ養育者であっても、その時の子どもの感情状態や状況によってもどのように働きかけるかは変わるだろう。子どもはこのような具体的な養育者の働きかけから、感情制御の具体的なスキルや、感情制御が必要な場面を学んでいくことが多くの研究で示唆されている (Hofmann, Carpenter & Curtiss, 2016)。

しかし先行研究は養育態度など養育者の信念に焦点が当てられ、冷たい養育者と暖かな養育者という大まかな2分類で議論が終始しており、このような養育者の具体的な働きかけの内容の違いや、状況の違いについては十分に検討されてこなかった。実践的な知見を得るには、どのような場面でどのように働きかけるのが、子どもの成長を促すのか、子どもの感情に対する養育者の働きかけを詳細に検討する必要がある。そこで本研究では、対他感情制御方略と子どもの感情の種類に着目する。

対他感情制御と感情制御方略

感情制御研究では、他者からの働きかけによって感情制御することを、対他感情制御といい、養育研究と同様に、感情制御発達には子どもの感情を制御する養育者からの対他感情制御が重要であることが示唆されている。実のところ感情制御研究では、状況・注意・認知・表出のいずれを変化させるのかによって感情制御を5分類できることが既に理論的に想定されている (Gross, 1998)。そこで本研究では、感情制御研究に従い、子どもの感情に対する養育者の対他感情制御方略として、状況選択方略、状況修正方略、注意の方向づけ方略、再評価方略、表出抑制方略の5つの方略を測定する。状況選択方略は子どもが感情的になる状況を前もって避ける方略である。状況修正方略は子どもが感情的になる状況から子どもの注意をそらす方略である。再評価方略は感情的になる状況も考えようによってはポジティブな側面があることを子どもに気づかせる方略である。表出抑制方略は感情に伴う子どもの表情や行動を抑える方略である。

感情場面ごとの違い

同じ養育者であっても、たとえば怒る子どもと不安がる子どもとでは、子どもへの働きかけは異なる (O'Neal & Magai, 2005; Guo et al., 2017)。養育者が子どもの感情にどのように向き合うのかを明らかにするには、子どもの感情場面ごとに検討する必要がある。子どもが経験する感情は様々あるが、本研究ではその中でも怒りと不安を扱う。怒り・不安はそれぞれ外在化問題・内在化問題と強く関連しており (Guo et al., 2017; 藤原・濱口, 2015)、怒り・不安を適応的な状態に感情制御することは子どもの精神的健康に不可欠といえる。

本研究の目的

以上より本研究では、子どもの怒り感情場面・不安感情場面における養育者の対他感情制御に着目することで、子どもの感情別に養育者の対他感情制御を詳細に捉え、子どもの感情をどのように支えているのかを明らかにすることを目的とする。特に本研究では実際の親子相互作用を観察し、養育者の対他感情制御がその場の子どもの感情にどのような変化を及ぼすのか検討する。

方 法

参加者

3-6歳児およびその養育者の親子ペア 120組。首都圏内の保育園および子育て支援センターを通して研究参加者を募る。なお参加者には1000円程度の謝品を渡す予定である。

調査手順

実験室にて、怒り喚起場面・不安感情喚起場面での親子相互作用を観察し、感情喚起から5分間の子どもの情動反応の変化、養育者の対他感情制御の各方略の有無、養育者の対他感情制御に対する子どもの反応をそれぞれ複数時点測定する。実験室での一連の様相は全て録画記録する。実験後、養育者を対象にインタビュー調査を行い、録画した対他感情制御場面を見ながら、なぜこのような対他感情制御生成に至ったのかその背景について半構造化面接を行う。なお、短期間に子どものネガティブ感情を複数回喚起することは子どもへの負担が大きいため、実験参加者には怒り喚起場面もしくは不安喚起場面のどちらか一方のみに参加してもらう。

感情喚起場面

怒り喚起場面では、事前に何が一番欲しいか何が最も欲しくないか聞いたにも関わらず、子どもが最も欲しくないと回答したものを実験者がプレゼントする。不安喚起場面は、隣の部屋に子ども一人で来るよう教示する。なお養育者には事前に感情喚起場面の内容について伝え、子どもには難しいと感じれば感情喚起場面教示をしない、「状況回避」することが出来ることもあわせて伝える。

測定方法

養育者の対他感情制御の各方略使用の有無，養育者の対他感情制御に対する子どもの応答の有無，子どもの感情表出の変化を測定する。各変数は録画記録をもとに10秒ごとに測定し，5分間での変化を観察する。コーディングの際には，セカンドコーダーとの一致率を算出する。

現在の進捗状況

2月中に予備調査を行い，実験手順を調整し5月中旬から本調査開始を予定している。

引用文献

- Denham, S. A., Bassett, H. H., & Wyatt, T. (2014). Chapter25: The socialization of emotional competence. In J. E. Grusec, & P. D. Hastings (Eds.), *Handbook of socialization: Theory and research* (pp. 590-613) Guilford Publications.
- Eisenberg, N., Gershoff, E. T., Fabes, R. A., Shepard, S. A., Cumberland, A. J., Losoya, S. H., . . . Murphy, B. C. (2001). Mother's emotional expressivity and children's behavior problems and social competence: Mediation through children's regulation. *Developmental Psychology, 37*(4), 475.
- Gross, J. J. (1998). The emerging field of emotion regulation: An integrative review. *Review of General Psychology, 2*(3), 271-299. doi:10.1037/1089-2680.2.3.271
- Guo, J., Mrug, S., & Knight, D. (2017; 2016). Factor structure of the emotions as a child scale in late adolescence and emerging adulthood. *Psychological Assessment, 29*(9), 1082-1095. doi:10.1037/pas0000412
- Hofmann, S. G., Carpenter, J. K., & Curtiss, J. (2016). Interpersonal emotion regulation questionnaire (IERQ): Scale development and psychometric characteristics. *Cognitive Therapy and Research, 40*(3), 341-356. doi:10.1007/s10608-016-9756-2
- 藤原健志, 濱口佳和. 高校生における聴くスキルと外在化問題・内在化問題の関連の検討. *カウンセリング研究*. 2015, vol. 48, no. 4, p. 228-240.
- O'Neal, C. R., & Magai, C. (2005). Do parents respond in different ways when children feel different emotions? the emotional context of parenting. *Development and Psychopathology, 17*(2), 467-487. doi:10.1017/S0954579405050224
- Saarni, C. (1990). Emotional competence - how emotions and relations become integrated. *Nebraska Symposium on Motivation, 36*, 115-182.